

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03711

研究課題名(和文)福祉ガバナンスと介護労働の変容に関する国際比較研究

研究課題名(英文)Comparative study on Welfare Governance and Transforming Care Work

研究代表者

石黒 暢(Ishiguro, Nobu)

大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：20273740

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：北欧諸国の高齢者介護サービス提供において、「サービスの供給」「財源」「規制」の3つの分野すべてにおいて基礎自治体が大きな役割を果たしており、高齢者の当事者団体、介護労働者の労働組合組織といった介護に直接関わる当事者の組織が政策決定過程に大きく参画している。北欧と日本両方において介護サービスの「市場化」とともに「再家族化」と「私費購入化」が進行しており、利用者の経済的状况によって社会的格差が生まれている。日本では訪問介護制度が十分に整備されていないことによって、施設に要介護度が高い利用者が集中する傾向にある。これが介護労働者の職務に大きな影響を与えていることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、デンマーク、スウェーデン、日本の高齢者介護政策における福祉ガバナンスの諸相とケアワークの実態を実証的に解明した。介護の国際比較研究において、制度的な面だけでなく介護現場におけるケアワークに焦点を当てた研究はほとんどみられず、学術的意義が大きいと考える。また、国際比較を踏まえて日本の介護実践の立ち位置を確認し、課題を指摘するとともに今後の介護政策への示唆を提示した点において社会的意義が見出せる。

研究成果の概要(英文)：In the provision of long-term care services for the elderly in the Nordic countries, municipalities play a major role in all three areas of "service delivery," i.e. "delivery," "financing" and "regulation". The organizations directly involved in long-term care, such as the organizations of the elderly and labor union organizations of care workers, also participate significantly in the policy-making process. In both Scandinavia and Japan, "re-familisation" and "privatisation" are progressing along with the "marketisation" of long-term care services, creating social inequality depending on the economic status of the care recipient. In Japan, the lack of a well-developed home-visit care service provisions resulted in high concentration of older people with severe care needs in residential care. This has a significant impact on the tasks and work conditions of care workers.

研究分野：社会福祉学

キーワード：介護労働 ケア ガバナンス 北欧

1. 研究開始当初の背景

申請者らは、社会民主主義レジームとして類型化される北欧諸国の高齢者介護システムに関する研究に取り組んできた。共同研究「北欧4カ国における高齢者介護システムの多様性とその要因に関する比較分析研究」(2008~2012年)では、北欧諸国の介護政策の多様性の要因を比較分析する研究を行い、「北欧におけるホームヘルプの民間委託とサービスの質に関する研究」(2008~2010年)では、ホームヘルプの民間委託とケアの質の変化と現状を分析する研究を行った。また、「北欧における高齢者介護のニーズ判定方法に関する実証的研究」(2011~2014年)では北欧の介護ニーズ判定方法がケアサービスに与える影響を実証的に分析する研究に取り組んだ。

これらの研究を行うなかで、福祉国家の制度的研究だけでなく、その変容が介護現場で介護労働者が担うケアワークの実践に与える影響に焦点をあてた、よりミクロレベルの研究を推進する必要性を認識するにいたった。従来、公的セクターが高齢者介護サービス供給の大半を担っていた北欧諸国は、1990年代からニュー・パブリック・マネジメントの流れを受け、経済性や効率性に焦点があてられるようになり、市場化の論理が導入され、介護供給における民間セクターの役割が増大している。一方、日本では、2000年に介護保険を導入する際に、営利企業が供給主体として参入する道が開かれ、介護の市場化が進められてきた。北欧でも日本でも従来の福祉国家体制がゆらぐなかで新たな福祉ガバナンスが浮上り、政府、市場、家族、市民社会の各セクターの関係が再編されている。

このような介護の市場化は介護現場で介護労働者が担う介護労働の諸相を変容させている。例えば日本では、介護保険制度導入以降の急速な高齢者介護の市場化とサービス化によって、ホームヘルパーの利用者との関わりが契約に定められたものとなり、ケアの「タスクベース化」、「部分化」が進行するとともに、ヘルパーの「非常勤化」が進行している。ところが日本では、ケアワークそのものの変容をミクロレベルから実証的に明らかにする研究はほとんどみられない。北欧諸国では、市場化がケアの実践を困難にしているという危機感のもと、高齢者介護と市場化に関する研究がマクロレベル、ミクロレベル両方において進められている。ミクロレベルでは、実際にケアを担う介護労働者に対する調査を通して、高齢者介護の変容を詳細に捉えるという国際比較研究が実施された。Marta Szebehely 教授(スウェーデン・ストックホルム大学)を代表とする研究者グループが、介護労働者を対象として大規模な質問紙調査(NORDCARE 調査)を2005年に実施し、続いてデンマーク、ノルウェー、フィンランド、ドイツ、カナダ、オーストラリアでも同内容の調査が実施され、その結果をもとに大規模な国際比較研究が展開されている。申請者らは、同教授と共同研究を実施することで合意し、日本においてNORDCARE 調査と同じ質問紙を使って介護労働調査を行った。これにより、日本のデータを使って国際比較することが可能となった。研究成果の一部は国内外の学会で報告しているが、さらに同調査を詳細に分析し、国際比較研究を発展させる必要がある。各国の介護労働者が日々担っているケアワークの内容、方法、組織、労働環境等をより洗練された比較の枠組みを用いて明らかにすることが必要である。

2. 研究の目的

本研究は、日本や欧州の高齢者介護の市場化に伴う福祉ガバナンスの変容について分析し、それが介護労働にどのようなインパクトを与えているかを明らかにすることを目指す国際共同研究である。文献調査、質的調査、量的調査を組み合わせる各国の市場論理導入のあり方やそれに伴う福祉ガバナンスの変容を分析し、介護労働がどのように変容しているか、諸相をとらえることを目指す。

3. 研究の方法

文献研究と討議を行った。

2012年に実施した量的調査の結果を詳細に分析した。

日本の介護労働者を対象とした質的調査(フォーカスグループインタビュー)を実施した。

日本の介護労働者を対象とした量的調査(質問紙調査)を実施した。現場でケア実践を行う介護労働者へのアンケート調査を実施し、合計3,000票の調査票を配布し、487の有効回答を得た。

海外(スウェーデン、デンマーク等)でヒヤリング調査と参与観察を実施した。

4. 研究成果

福祉サービスの提供(delivery)は、サービスの供給(provision)、サービスのための財源(finance)、規制(regulation)という3つの分野からなると考えられるが(高橋2003)、デンマークやスウェーデンの高齢者福祉の福祉ガバナンスにおいては3分野すべてにおいて基礎自治体が大きな役割を担っている。デンマークにおいては全国の基礎自治体を束ねる全国基礎自治体連合(KL)の役割も大きく、基礎自治体の利益を代表して国と各基礎自治体をつなぐとともに、全国の基礎自治体の取り組みについて情報を集約してコーディネートする機能ももって

いる。それに加えて高齢者の当事者団体と介護労働者の労働組合組織が介護政策決定過程に参画しているのが北欧の特徴であり、とりわけデンマークにおいては当事者組織の関与が大きいことが明らかになった。それぞれのステークホルダーがそれぞれの立場から熟議を重ね、合意を形成するこのような政策決定過程は、Perczynski (2001) の「結社・熟議民主主義」(associo-deliberative democracy) の1つのモデルを示していると考えられる。

介護サービスにおいて、一律な基準やルールを適用する「標準化」や、タスクベースで決められた時間だけ支援を提供する「介護のタスクベース化・断片化」が進行していることが指摘されているが、そのようななかで介護現場に関わる専門職は、利用者の個別ニーズに沿った支援を提供するために多様な手段を用いて現場裁量を確保しようとしていることが明らかになった。このような現場での実践は可視化されづらく、ボトムアップで政策に影響を与えることにはなかなかつながりにくい。

介護サービスにおいて普遍主義 (universalism) を特徴としてきた北欧諸国であるが、ここ20年ほどは、介護の市場化とともに、再家族化 (re-familialisation) と私費購入化 (privatisation) の傾向が強く見られる。介護サービスの受給が厳格化され高齢者のうち介護サービスを利用している人の割合が低下しているが、それを補うために家族の介護に依存する兆候 (再家族化) は資源が少ない高齢者にみられ、一方で資源の豊かな高齢者は自費で民間サービスを購入する (私費購入化) の傾向が見られるといったように、社会的格差が広がっている。

日本においても類似の傾向がみられる。要介護度が高い高齢者の多くは特別養護老人ホームへの入所を希望するが、現在は待機者が多く、希望の施設にはすぐに入所できない場合が多い。経済的資源のある高齢者は有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅に入居するという選択肢があるが、資源のない高齢者は家族から支援を受けなければならない等の格差が明らかになっている。

スウェーデンやデンマークでは、施設 (介護付き高齢者住宅) の入居要件が厳格化され、利用率が低下している。これにより、要介護度が比較的高い高齢者もヘルパーによる訪問介護を受けながら在宅で暮らすケースが増加している。一方日本では、在宅介護を可能とする制度の拡充を目指してきているが、要介護度が高い高齢者が在宅生活を継続できるだけのサービス量が確保できていない。それゆえ、要介護度が高い高齢者は施設を利用し、訪問介護の利用者は要介護度が比較的低い高齢者が多いという傾向がみられる。その結果、日本においては、ホームヘルパーと施設職員との間に、職務内容や労働環境、職業性ストレス等の点で大きな違いがみられることが明らかになった。これはスウェーデンやデンマーク等ではみられない特徴である。

2012年に行った量的調査 (質問紙調査) の第2回目調査を2022年に行った。介護労働者を対象に属性、職務内容、労働環境等を質問した調査であるが、多くの点で前回2012年と変化があまりみられない結果となった。スウェーデンやデンマーク等では、第1回目調査と10年後の第2回目調査で結果に大きな違いが出ており、とりわけ労働環境の悪化や職務の負担増が明らかになっている。深刻な介護人材不足で大変な負担がかかっている日本の介護現場において10年間で変化があまりみられない背景について、今後より詳細な分析を継続する予定である。

<参考文献>

Perczynski, Piotr. 2001. "Associo-deliberative democracy and qualitative participation", Paul Hirst & Veit Bader (eds.) *Associative Democracy: The real third way*, 71-84. Frank Cass Publishers.
高橋万由美. 2003. 「第7章 多元的福祉と当事者選択の拡大 - 介護保険・保育における多元的福祉へ向けた条件整備の状況」『福祉国家のガヴァナンス』207-236. ミネルヴァ書房.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 石黒暢	4. 巻 23
2. 論文標題 「手を出しすぎないケア」のあり方 - デンマークの高齢者介護における自立支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDUN - 北欧研究	6. 最初と最後の頁 237-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 石黒暢	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 書評 猿田正機著『トヨタ研究からみえてくる福祉国家スウェーデンの社会政策』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 143-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 斉藤弥生	4. 巻 23
2. 論文標題 賀川豊彦とスウェーデン・デンマーク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDUN - 北欧研究	6. 最初と最後の頁 225-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hildegard Theobald, Marta Szebehely, Yayoi Saito & Nobu Ishiguro	4. 巻 -
2. 論文標題 Marketisation Policies in Different Contexts: Consequences for Home-Care Workers in Germany, Japan and Sweden	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Social Welfare	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijsw.12298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米田百星、吉岡洋子	4. 巻 42
2. 論文標題 ドイツにおける新しい家族政策 歴史的展開からみる新たな歩みと課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 頌栄短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒暢	4. 巻 22
2. 論文標題 高齢者介護のガバナンス - デンマークのウェルフェア・テクノロジー施策からの検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDUN	6. 最初と最後の頁 195-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/60753	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋子	4. 巻 22
2. 論文標題 BBICにみるスウェーデンの子ども保護・支援システム - 2000年代以降の動向と課題 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDUN	6. 最初と最後の頁 253-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/60752	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋子、山口宰	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 高齢者介護施設における男性職員の就業継続要因 ~ 3つの階層におけるフォーカス・グループから ~ 『』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00027661	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石黒 暢	4. 巻 24
2. 論文標題 コロナ禍におけるデンマークの高齢者介護：ウェルフェア・テクノロジーの活用に焦点をあてて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDUN - 北欧研究 -	6. 最初と最後の頁 153 ~ 165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/87444	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobu Ishiguro	4. 巻 10
2. 論文標題 Technology from the perspective of care	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JASPS Bulletin	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石黒 暢	4. 巻 14(3)
2. 論文標題 介護とテクノロジー - ケアの倫理の視点から - 社会政策	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Yayoi Saito
2. 発表標題 'Co-producer' or Passive Beneficiary? Findings from a Survey of Cooperative Health and Eldercare in Japan
3. 学会等名 Transforming Care Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡洋子
2. 発表標題 スウェーデンにおける要支援・保護の子ども「声を聴く」視点と方法
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡洋子
2. 発表標題 子どもの声を社会制度の変革につなげるチャイルドラインの戦略
3. 学会等名 社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡洋子
2. 発表標題 スウェーデン教会による地域での福祉事業と子ども支援
3. 学会等名 日本地域福祉学会第33回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobu Ishiguro
2. 発表標題 Varieties of Domestic Care Regimes: Restructured Inequalities through Public Policy
3. 学会等名 第139回社会政策学会秋季大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yoshioka
2. 発表標題 Relinquishing Advocacy in Exchange for Government Collaboration Legitimacy: The Dilemma of CSO 's Engagement with Child Poverty in Japan.
3. 学会等名 13th International Conference ISTR (=International Society for Third-Sector Research) , Amsterdam, Holland. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉岡洋子
2. 発表標題 スウェーデン教会による地域での子ども対象の活動・支援 - 多様なアプローチから生まれる社会的つながり
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makiko Morita, Nobu Ishiguro, Jeppe Agger Nielsen & Jon Aaen
2. 発表標題 The nursing home of the future: Transformation from showroom of technology to homey environment
3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石黒暢
2. 発表標題 高齢者介護における福祉用具給付 - 個別ニーズの視点から
3. 学会等名 日本介護福祉学会第26回秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石黒暢
2. 発表標題 書評報告『トヨタ研究からみえてくる福祉国家スウェーデンの社会政策』（猿田正機著，ミネルヴァ書房，2017年）
3. 学会等名 第137回社会政策学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobu Ishiguro
2. 発表標題 Successful Introduction of Welfare Technology in Elderly Care?: A Perspective on Governance
3. 学会等名 The 14th EASP Annual Conference: East Asian Social Policy in a Changing Environment: Comparisons, Visions and Futures , Nagoya University (Japan), August 2-3 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobu Ishiguro
2. 発表標題 Can technology contribute to good care? Introducing technology into Japanese elderly care
3. 学会等名 The 3rd Transforming Care Conference: Innovation and Sustainability , Polytechnic in Milan (Italy), June 26-28th (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉岡洋子
2. 発表標題 スウェーデンのNPOによる子どもの権利擁護 - 「子どもの声を聴く」ことを基盤とした ソーシャルアクション
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会第11回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石黒暢
2. 発表標題 デンマークの高齢者介護におけるウェルフェア・テクノロジーの活用
3. 学会等名 日本社会福祉学会第64回秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nobu Ishiguro
2. 発表標題 Do care robots play a role in Japanese eldercare?: Cultural values on care
3. 学会等名 The 13th EASP Annual Conference: Social Policy and Gender in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J.
2. 発表標題 Co-production of Health and Elder Care: Cooperative models in Japan
3. 学会等名 ISTR's 12th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Endo, C., & Saito, Y.
2. 発表標題 More than Association? The Case of the Minami Medical Cooperative
3. 学会等名 ISTR's 12th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J.
2. 発表標題 Co-production of Health and Elder Care: Cooperative models in Japan
3. 学会等名 The 4th International Conference on Social Enterprise in Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J.
2. 発表標題 Co-production of Health and Elder Care
3. 学会等名 The 45th Annual ARNOVA Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斉藤 弥生
2. 発表標題 「サービス選択自由化法」と介護サービス提供体制の多様化 : スウェーデンの2自治体の比較から (テーマ別分科会「スウェーデン、韓国、日本における介護サービスの提供体制と自治行政」)
3. 学会等名 社会政策学会第132回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斉藤 弥生
2. 発表標題 福祉ガバナンスとソーシャルワークに関する研究 : ドイツにおける生活困窮者事例解決のプロセスとその特徴
3. 学会等名 日本地域福祉学会第30回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoko Yoshioka
2. 発表標題 A Comparative Study of the Role of Civil Society Organizations in Elder Care in Japan and Sweden: Challenges faced in the quasi-market
3. 学会等名 ISTR 'S 12th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Y. Saito, M. Osaka, N. Ishiguro, T. Yamaguchi, M. Kaneda, M. Azuma, F. Nakamura, B. Kim, J. Shimaya, Y. Yoshikawa
2. 発表標題 Can communication robot improve quality of life in a group living for people with dementia?
3. 学会等名 ISG's 12th World Conference of Gerontology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobu Ishiguro
2. 発表標題 Care management of assistive technology provision in standardized elderly care
3. 学会等名 Transforming Care Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石黒 暢
2. 発表標題 介護とテクノロジーケアの倫理の視点からー
3. 学会等名 社会政策学会第144回 (2022年春季) 大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 齊藤弥生、石黒暢	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 430
3. 書名 新世界の社会福祉 3北欧	

1. 著者名 齊藤弥生	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 120
3. 書名 「高齢者福祉の課題」『NHKテキスト社会福祉セミナー』2019年10月～2020年3月号	

1. 著者名 齊藤弥生・石黒暢（編著）、佐藤桃子、山口宰、吉岡洋子、Marta Szebehely、Gabrielle Meager、Sara Erlandsson、Palle Storm、Anneli Stranz、Gun-Gritt Trydegaard、Tilde Marie Bertelsen、Tine Rostgaard、Mia Vaboe、Karen Christensen、Frode Fadnes Jacobsen、Haakon Dalby Traetteberg	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 430
3. 書名 市場化のなかの北欧諸国と日本の介護 その変容と多様性	

1. 著者名 齊藤弥生、石黒暢ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 298
3. 書名 北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす（浜渦辰二編）	

1. 著者名 石黒暢ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 404
3. 書名 なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか～子どもの豊かな育ちを保障するために（泉 千勢編）	

1. 著者名 Nobu Ishiguro, Yayoi Saito et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 360
3. 書名 The Routledge Handbook of Social Care Work Around the World (Karen Christensen and Doria Pilling eds.)	

1. 著者名 斉藤弥生ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 120
3. 書名 NHKテキスト社会福祉セミナー2017年10月～2018年3月	

1. 著者名 斉藤弥生、上野谷加代子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 273
3. 書名 地域福祉の現状と課題	

1. 著者名 齊藤弥生、駒村康平、永田久美子、岩間伸之	4. 発行年 2016年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 96
3. 書名 NHKテキスト社会福祉セミナー 2016年8～11月号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山井 弥生 (齊藤弥生) (Yamanoi Saito Yayoi) (40263347)	大阪大学・人間科学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	吉岡 洋子 (Yoshioka Yoko) (80462018)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 特別公開セミナー「北欧福祉レジームの最新動向と課題 - 高齢者介護を例に - 」(Recent Changes and Challenges to the Scandinavian Welfare Regime: The Case of Elderly Care)	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 特別国際セミナー「デンマークの高齢者介護と医療・保健におけるデジタルイノベーション - 遠隔医療の大型プログラムから学ぶ」(Digital Transformation in Danish Eldercare and Healthcare)	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	フランクフルト応用科学大学			
デンマーク	オルボー大学	ロスキレ市	スヴェンボー市	
ドイツ	ハインリッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学			
スウェーデン	ストックホルム大学			